



3 片岡城の戦いーその1 始まりと松永久秀の戦いー

関川尚功（上牧町教育委員会 文化財専門員）

▶問合先 社会教育課 TEL76-2532

片岡国春により片岡城が築かれた時代の大和は、興福寺と結び付く有力な武士団が互いに激しく勢力争いをしていた時代でした。片岡氏とその一族やそれに従う一党の広がり、香芝市・上牧町・河合町・王寺町を含み、北は斑鳩町南部、南は葛城市北部まで及んでいました。そして国春の子の片岡春利は、大和で最も力のある筒井順慶の妹婿として筒井氏らと組み、片岡地域を治めていました。戦国時代は下剋上が盛んで、このころ京都や大阪地域を支配していたのは、足利将軍を越える勢いのあった三好長慶でした。

永禄2（1559）年、この三好長慶の命により、その有力家臣である松永久秀が大和支配をめざして攻め込みます。これにより筒井順慶は筒井城を落とされ敗走します。そして永禄11（1568）年に、織田信長が将軍足利義昭と共に京都に入ると、三好氏は追われて、その時代は終わりますが、松永久秀はただちに織田信長に対して名物茶器を進上して信長の臣下となり、大和の支配権を認めてもらいます。しかし大和の武士団の多くは、筒井順慶を中心に久秀に抵抗し、各地で戦いが続きます。

松永久秀はさらに大和での勢力拡大をはかり、永禄12（1569）年に片岡城に攻め寄せます。筒井方から勇将とされた片岡春利は健闘しますが、最後は敗れて片岡城を明け渡すことになります。こうして片岡城は信貴山城とともに、松永方の大和から堺など大阪方面に通じる重要な拠点となりました。この時に片岡城はさらに堅固で大規模な城に改造されたと思われます。そして片岡春利は翌年、36才の若さで病死します。この時、筒井順慶は大いに悼み、香奠として金子千両・ろうそく二千挺をつかわし、菩提寺である達磨寺（王寺町）にも銀千両を追善のため贈ったと記録にあります。春利が亡くなった後の片岡氏は、春之が継ぐことになりました。この片岡春利の墓は達磨寺にあり、片岡氏の存在を今に伝えています。



片岡春利の墓
（王寺町・達磨寺）



松永久秀像
（高槻市立しろあ歴史館所蔵）